

2015年第3四半期（7月～9月）における海外安全対策情報

1 社会・治安情勢

- (1) 昨年9月豪州政府は、イラク・シリアにおけるISILの動きや外国人戦闘員の問題を受け、国内におけるテロ警戒レベルを「最高位」「高位」「中位」「低位」の4段階中、「中位」から「高位」（上から2番目）に一段階引き上げた。同年12月シドニーでは人質拘束事件が発生し、2015年10月には同じくシドニーにおいて警察職員が銃撃されるテロ事案が発生している。
- (2) ISILの発行するDABIQ最新号（2015年9月発行）においてはボスニア、マレーシア及びインドネシアの日本外交団を名指しで攻撃するよう宣言している他、豪州を含む対ISIL連合国において、市民を攻撃するよう支持者を扇動する声明を発出しており、一般犯罪はもとより無差別に行われるテロ行為等に対しては最新の情報の入手に努めるとともに十分な警戒を払って行動する必要がある。
- (3) ACT（首都特別地域）内における治安情勢については、全般的に安定しているが、昨年テロ警戒レベルが引き上げられて以来、議会等の警備が強化されている。豪州連邦警察によると、邦人を標的にした動きはなく生活をする上での支障はないとの認識だが、日本に比べ全般的に犯罪発生率も高いことから防犯上、普段から十分な心掛けが必要である。
- (4) 一般的に対日感情は良好であるが、日本の調査捕鯨・イルカ漁に対し、一部の環境・動物愛護団体を中心として強い反対感情がある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 昨年同時期と比較し、ACT全体の犯罪発生件数は2.3%減少した。
- (2) 地域的に減少傾向にある地域は、Canberra's North地域であり、Inner Northで10.1%減少している。Canberra's SouthではTuggeranongで9.7%減少、Wodenで7.6%減少しているが、Inner Southでは28.9%増加、Weston Creekでは7.0%増加している。
- (3) 前期と同様、人口の増加が顕著なMolonglo地区は23件から63件と273.9%増加している。
- (4) 犯罪別では、性的暴行は20.0%、強盗は20.6%減少している。
- (5) 逆に車両盗難は36.3%、窃盗は11.5%増加しており、昨年に比し車両盗難の増加が顕著である。
- (6) なお、当該犯罪統計上、ACTにおける2015年第3四半期の犯罪発生件数は以下のとおり。（ ）内は、前年同時期の発生件数を示す。
 - ・殺人、殺人未遂： 0件（ 0件）

・ 暴 行	:	4 4 0 件 (4 6 8 件)
・ 性的暴行	:	6 6 件 (8 2 件)
・ 対人犯罪	:	3 3 件 (3 0 件)
・ 不法目的侵入	:	5 6 2 件 (5 4 7 件)
・ 強 盗	:	3 1 件 (3 9 件)
・ 窃 盗	:	2 3 9 7 件 (2 1 5 0 件)
・ 車両盗難	:	2 4 4 件 (1 7 9 件)
・ 器物損壊	:	1 0 8 7 件 (1 0 0 7 件)

- (7) 7 月中に窃盗 (1 件)、車上荒らし (2 件) が在留邦人から報告されている。警察によると特に邦人を狙ったものではなく金品目的によるものと認識している。

3 テロ・爆弾事件発生状況

- (1) 昨年 9 月, 治安当局はシドニー及びブリスベン郊外でテロリストの一斉摘発を行い, 豪国内でのテロを準備していた容疑者の身柄を拘束した。
- (2) 同年 9 月, メルボルン郊外の警察署前において, 18 歳の少年がナイフで警察官を襲い, 重傷を負わせた。同少年はその場で射殺された。
- (3) 同年 12 月, シドニーのカフェにおいて散弾銃を持った男一人による人質立てこもり事案が発生し, 人質 2 人が犠牲となった。犯人は突入した警察部隊により射殺された。
- (4) 今年 10 月, シドニーの NSW 警察前において拳銃を持ったイスラム教徒である 15 歳の少年が警察職員一人を銃撃し, 死亡させた。同少年はその場で射殺された。
- (5) 同事件以降, 16 歳～22 歳の若者グループがテロを支援していたとして摘発されている。

4 誘拐・脅迫事件発生情報

邦人被害の事件は認知していない。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

特に認知していない。